

Y M C A 国際ビジネス専門学校

2020年度
学校自己評価報告書

学校法人横浜Y M C A
Y M C A 国際ビジネス専門学校

基準日：2020年3月31日

作成日：2020年5月

1. 学校の教育目標

YMCA国際ビジネス専門学校は、横浜YMCAカレッジグループを構成する学校として「横浜YMCA－私たちの使命」に基づき、人間性が尊ばれ、公正で平和な世界の実現を目指して社会に貢献する人材を育成したいと考えています。そのために次のことを大切にしていきます。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

人はみな、生活習慣、伝統、宗教などの異なる背景を持っています。また、それぞれの能力、個性、生き方には違いがあります。そのような一人ひとりの存在に敬意をはらい、それらの違いに気づき、学ぶことの必要性を感じる人とともに学んでいきたいと思えます。

私たちYMCAの専門学校は、学校内外で出会う一人ひとりの違いを受け容れ、長所をみつける場所でありたいと思えます。こうした考え方を十分に理解し、地球社会の一員として成長しようとする意欲のある学生を受け入れます。

- ・社会で起こっているさまざまな事に対して興味・関心をもち、主体的に行動できるようになること
- ・異なる価値観や文化、性別などに偏見をもたず、様々な人々と良好な関係を築き、協働することができるようになること
- ・他者の考えや主張に耳を傾け、自分の意見を表現できるようになること
- ・教職員もまたさまざまな人とともに、自らの課題に向き合い、学びあう場を提供できるようになること

これらのことを、学生生活での学習や体験から学び合いたいと思えます。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

一人ひとりのいのち・存在を大切にするという原点に立ち、多様な側面から人間を理解し、受け入れていくことを学ぶ学校でありたいと私たちは考えています。

私たちの持つ教育課程(YMCAで共に生きていくこと、生活すること)の中から、専門職に求められる姿勢が「みつきり」、他者とともに喜びや悲しみを分かち合う経験を重ねて「つながる」ことの大切さを理解して欲しいと願います。

カリキュラムには学生がさまざまな問題に気づき、自ら問いかけ、解決していくことができるような機会を提供するため、グループワークの手法を用いた演習授業を多く設定します。

また、学生が体験から学ぶことを重視し、職業現場と連携をした実習を行います。さらに広い視野と豊かな感性を身につけることができるように、専門分野の枠を超えて、さま

さまざまな YMCA 活動やボランティア活動から学ぶことのできる機会を、もう一つのカリキュラムとして提供します。

これらの教育活動を支えられるよう、教職員は自己研鑽に励み、学生一人一人の課題と向き合い、ともに学びあう姿勢と風土を育みます。

ディプロマ・ポリシー（卒業単位認定・称号授与の方針）

学生生活を通して、YMCA にある様々なネットワークを活用し、学内外で多くのボランティア活動に参加し、地域や社会にある課題を自分ごととして捉える素養を身につけて欲しいと願っています。さまざまな人とのかかわりから、喜びや悲しみを分かち合うことは豊かな人間関係を育みます。豊かな人間関係は、いつも他者に対して感謝する気持ちを育てます。人や社会とかかわることによって、ともに生きる福祉社会を作り出す担い手になると信じています。教職員は卒業生と同じ専門職として対等な立場で、ともに地域の課題を解決するためのネットワーク作りを推進します。

多くの人との出会いや、ともに分かち合う体験から、専門職に必要な姿勢と素養が「みつかる」学校であり、人や社会と「つながる」場所であることが私たち横浜 YMCA の専門学校の役割です。つながりは変わりゆく社会において、一人ひとりにとって大切な価値へと変化していきます。

学生一人ひとりが YMCA 専門学校での学習期間で得る、資格取得に必要な知識や技術と、専門職に必要な姿勢と素養、そして YMCA 活動やボランティア活動から人との協働する経験を自身の糧として、人と分かち合うこと、「つながる」ことを実践の場で活用できる力身につけます。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

安定した運営状況を目指し、新入生の定員確保を目標とします。

学生募集にあたっては、これまでの広報費用をあげることなく各種媒体業者との交渉を行い、高校生及び対象者への周知方法を継続します。学校の告知方法として、現在では一番有効となる Web での情報公開だけでなく、SNS を利用した双方向のコミュニケーションを可能とした手法を取り入れて、希望者に対して有効な情報を提供できるように、そして丁寧な対応ができるように工夫します。

基礎力をあげるため、主に国語力（日本語力・表現力）を高めるために設置しているカリキュラムで、実習には必須の実習日誌の作成に必要な基礎も文章力をつけていきます

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か)	④	3	2	1
・学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

①課題

2年間で専門士としてふさわしい人材を育成することを目指し、各関係業界や教育機関へ学校の理念や目標を伝えていく努力を継続して行います。そして、同年代や地域との交流や日本文化の理解促進、語学スキルの活用など推進がさらに必要です。

②今後の改善方策

関係省庁が求める学校・教育機関としてふさわしい学校となるため、教職員と業界や教育等の情報を共有し、学校情報の発信方法や業界に求められる人材育成等を行っていきます。

③特記事項

特になし

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1

・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
・人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
・教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1
・受け入れる学生の言語対応体制が整えられているか	4	③	2	1
・出入国在留管理局が認めた申請取次者を配置しているか	④	3	2	1
・日本語教育機関の運営に関する基準で定められる要件の整えた校長、教員が配置されているか	④	3	2	1

①課題

十分な情報システムや教務システムが浸透しておらず、効率化が図られていない事があります。カレッジグループ内でシステム化されている内容を有効活用し、整備できるよう整えていきます。また、業界や地域等のネットワーク作りに十分な活動がされておられません。

さらに教職員のパソコンスキル向上も必要な要素と考えます。

②今後の改善方策

引き続き業界や地域社会とネットワーク作りに力を入れ、学校運営に反映させていきます。そして、必要な人材育成を行ってまいります。

③特記事項

特になし。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	③	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	③	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	④	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・関連分野における業界との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1

・職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1
・入学時にオリエンテーションを行い、学習時間や学歴のほか、入管法に関する事項等を学生に配布しているか	④	3	2	1

①課題

カリキュラム等は外部や業界人より意見をいただき毎年検討して作成しております。また、インターンシップ先と業務提携や授業協力等、今後も外部や関係機関との連携を図ってまいります。

教職員及び教員は、必要と思われる研修や勉強会への参加を促し、常に学生への必要な情報やキャリア教育が実現できるよう発信を行ってまいります。

②今後の改善方策

業界が求めている人材やスキルを、関係機関や企業への情報交流を行い、時代に沿った人材育成を行えるよう進めて参ります。

③特記事項

特になし。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	3	②	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	③	2	1
・日本留学試験、日本語能力試験等の試験結果を把握しているか	④	3	2	1

①課題

今年度就職率は良いですが、学生が希望する企業へ就労できるよう、早期に自己分析や個別支援等を更に強化する必要があります。また、留学生は就職や進学に必要とされる試験やスコアアップのための対応策が必要です。そのことにより、学生が希望する分野への就職が可能となります。

資格取得のための科目も配置しておりますが、まだ成果が出ておりません。

②今後の改善方策

学生との個別面談で必要な支援を早期に提示し、退学者を減少させていくようにいたします。また連絡人や保護者等と連携をして、丁寧に学生対応をまいります。

③特記事項

特になし。

(5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者（連絡人）と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1

・高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1
・日本での生活指導（在留及び住居）等の支援体制が整えられているか	④	3	2	1
・在留に関する情報を正確に把握し、問題ある学生への個別指導を行っているか	④	3	2	1
・休日や長期休暇の対応ができていますか	④	3	2	1

①課題

卒業生が就職し、現在は在校生への可能な支援を共に行っています。卒業生の学び直し講座や在校生との交流により、進路支援が可能になると考えます。留学生には、長期休暇前のオリエンテーション等で説明を行い、支援や指導を行っておりますが、十分理解できていない場合もありますので、徹底してまいります。

②今後の改善方策

就職した卒業生へ現在の課題や問題などをヒアリングして、在校生へのキャリア支援とすることや、課題を抱える卒業生への学び直しの機会を設けます。

③特記事項

学びの支援のため、全学生にメールアドレスを配布し、情報共有のために使用することや、グーグルのクラスルームを活用して、継続的な学習支援を行っております。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

①課題

パソコンを使用する授業が多くなったことによる WIFI 環境の整備や備品整備が必要

となりました。それに伴う教職員や教員の知識向上の必要であります。回線や台数等の検討が必要と考えます。

②今後の改善方策

カリキュラム内容等を検討しつつ、整備・設置する必要があるれば検討してまいります。

③特記事項

学生推移により、現在の環境で可能か否かの検証が必須です。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・募集資格及び条件を入学希望者の理解できる言語で明記しているか	④	3	2	1
・海外の募集代理人等の行う募集活動を適切に把握し、現地の法令を遵守した募集活動を行っているか	④	3	2	1

①課題

カレッジグループのネットワークにより神奈川県内の指定校訪問や、定時制高校との連携を図り、学生募集を行っております。また Web を活用しての学校説明会や SNS を活用して情報発信を実施しております。

グローバル化に伴い、多方面からの入学希望者が増えています。奨学金や支援制度を適宜見直し、募集広報に結び付けてまいります。

②今後の改善方策

募集対象者がわかりやすい広報内容か否か、常に入学要項等の改善に努めます。また学校訪問、校内ガイダンス等では必要な情報を提供し、学校関係者や学生からの意見を反映させる募集内容を心がけてまいります。

併設している日本語学科では国・地域によっては訪問が難しいこともあり、代理人を

的確に把握し募集活動を確認いたします。

③特記事項

特になし。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	②	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

①課題

学科が開設したところで、コロナウイルス感染拡大の影響により、学生の就職先となるサービス業や観光業が厳しい状況となりました。そのため安定しているとはいいがたいところはあります。

しかし、業界では新たな施設が建設され、実施されるオリンピックの実施が控えていたり、必要な人材確保と育成が求められています。本校としても、高等学校へ生徒募集に力を入れ、業界や関係機関と連携し、将来を担う人材育成を行ってまいります。

②今後の改善方策

本校は日本語学科も併設されており、留学生の進学先の1つとして観光ビジネス科があります。留学生の在籍数確保も安定した運営基盤を保つ1つです。また神奈川県内の指定校となっている高等学校や定時制高校へグループ校の協力のもと訪問し、認知度を高めることなど学生募集に努めてまいります。

③特記事項

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1
・出入国在留管理及び難民認定法令及び各種関係法令等を理解し、適切に守り運営がなされているか	④	3	2	1
・不法残留や資格外活動違反等を発生させないための取り組みを定期的に行っているか	④	3	2	1
・出入国在留管理局、関係官庁等への届出や報告を延滞なく行っているか	④	3	2	1

①課題

新しい学校として、より多くの意見や関係作りが必要です。

また、関係省庁のホームページや担当者から情報を受け取り、最新情報をもとに学生対応や学校運営等を実施いたします。

②今後の改善方策

学校関係者や企業関係者の方々と連携をとり、より良い教育環境を築き上げていきます。

③特記事項

特になし。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	②	1

・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
・地域とのかかわりを持てる活動を提供しているか	4	③	2	1
・留学生の受け入れ、派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	④	3	2	1

①課題

川崎市や多摩区の関りが十分にできておりません。学内でのボランティア活動は委員会や行事を通して実施しております。学生のみならず教職員も視野を広げ、幅広い人たちと関係作りに努力いたします。

今後も川崎市や多摩区と情報共有し、学生が地域貢献できる場を作り、地域企業や住民の方々と連携できるよう努めてまいります。

②今後の改善方策

地域や関係機関との協力を得て、グローバル化に向けた協力体制を構築いたします。

③特記事項

特になし。